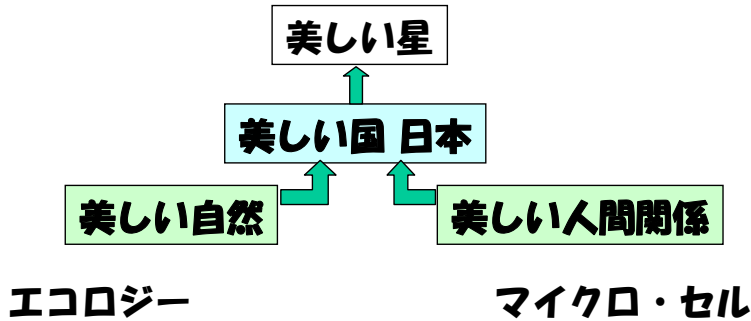


西の端、長崎の小さなNPOから

日本型メッシュ無線LANの提案



なぜデジタルデバイドは解消されなければならないのか！

美しい国日本を救う唯一の手段こそ 地域メッシュ無線LANだから

日本型メッシュ無線LANの現状と理念 —SOCION Theoryの応用—

地域社会の再生 and/or Webを通じた地域社会づくり

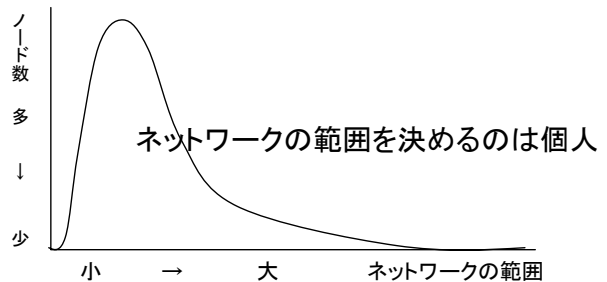
Web2.0の問題点

- 携帯メールの日常化
⇒ 浅く広い人間関係
- 掲示板・ブログ・SNS
⇒ 匿名の無責任バーチャル社会
- 超高速化
⇒ 多量の感覚的情報

- 様々な個人を結びつける
⇒ 小さな範囲から大きな範囲まで(Weak tie)
- Webに地理的制約をかける
⇒ 無視すると社会的規範が形成されない
⇒ 地理的ネットワークのWeb Strata (階層化)
- 実名性
⇒ 100%匿名性は地域社会になじまない

Webは醜い社会を再形成してしまう

- 徹底的に分断化された個人
⇒ 規範崩壊・無批判・無責任・感情的
- Web2.0の次に来るもの
⇒ Webヒエラルキー・全体主義



コミュニケーション手段であるネットワークは技術のみを語るべからず

ネットワークの技術革新は社会そのものを急速に変化させる
電気通信事業者は社会に対して責任を持たねばならない

地域キャプチャー情報と地域ネットワークサービス

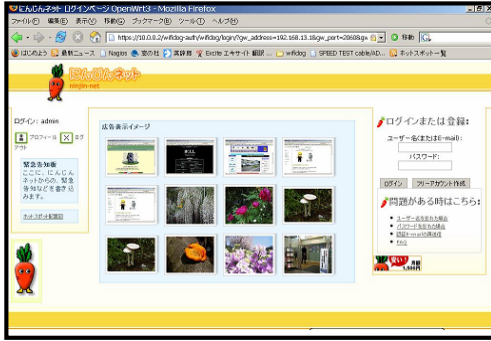
地域ISPに重要な問題

閉鎖的の地域情報の形成⇔必要な情報のほとんどは地域内にある
 地域ぐるみのセキュリティー⇔ネットワークの切断

キャプチャーの利用

伝えたい情報を確実に伝える⇔ネットワークに接続すると同時に表示する

キャプチャー画面



内部にんじんHP



M-APノード管理画面



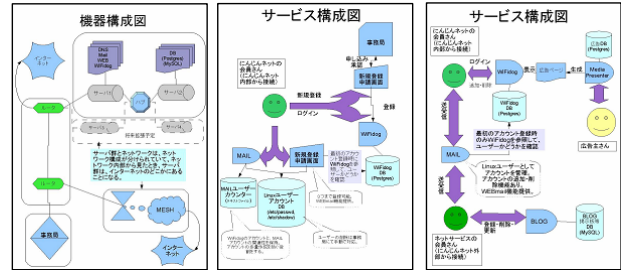
M-AP管理画面



M-AP地図表示



CNS(Community network service)による関係構築
 ソーシャル・ネットワークの地域版
 (P-HP・ブログ・話題スレッド・動画
 クラブ・ソフトアイコンなど)
 統合ソフトが初期画面となる



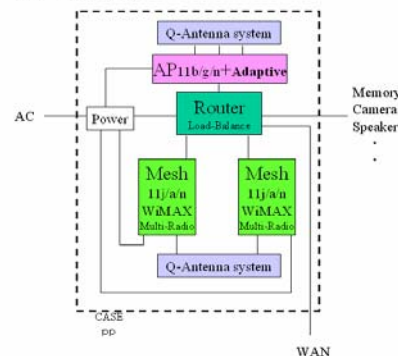
大切なこと (ハード編)

中山間地であろうと入江の漁村であろうと

- メッシュは第四世代に突入
 これまでの無線LANはおもちゃ
- 通信速度
 そこそこあればよい(最低5Mbps程度)
- Micro-Mesh と中継の両立
 150mセル内で-90db
 中継は1.5Km
- アダプティブ は距離だけではない
 MIMO+Adaptive Antenna System
 通信距離 3倍 反射波による回り込み
- EIRPは総合力
 Radio Power + Antenna Gain + Beam forming
- スムーズ・トラフィックのためのハイウェイ・ルート
 Double Radio × Double Route
- メッシュによる分散サーバの可能性
 先ずはProxy から
- Network 監視
 無線部分の障害検知方法
- 安価で設置しやすいこと
 地元の電気屋さんでOK



CAN-MeshAP6114



大切なこと（ソフト編）

日本型地域メッシュにしかできないことがある！

いつでも・どこでも・だれでも・なんでも

日常的に・地域の・知り合いに囲まれて・心通じる情報を

- ネットからご近所への誕生日お茶プレゼント
=ご近所のご近所は皆ご近所になる仕掛け
- 何よりも安価であること
=800円/月のみ
- 「無線はセキュリティーが…」はもう古い！
=地域での情報鎖国が4番目のセキュリティー
- ネットにも視界がある
=ご近所は名前も顔も心も分かるが…
- 絶対に伝えるべき情報は必ず伝わる
=電源ONで見える情報
- 自分のHPで全てが分かる
=HP+SNS+DeskTop統合ソフト

メッシュだから地域内のWebは外からはアクセスできない=情報鎖国